

「惣構と東部の地域」

有岡城跡

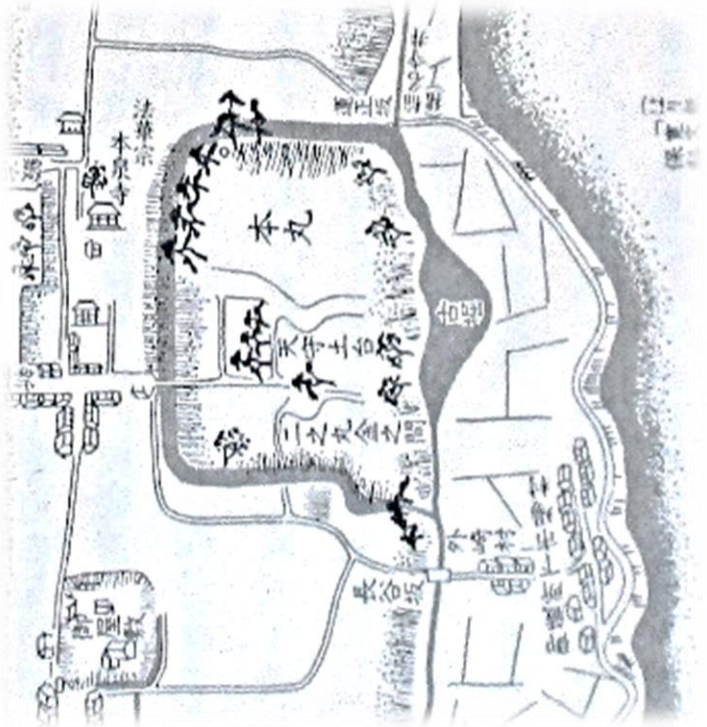
有岡城は伊丹台地が東に突き出た地形を巧みに生じて築かれています。東面は伊丹台地の10mにも及ぶ高低差の崖を防御に利用して、直下には猪名寺井に連なる不整形な堀があります。その東側は湿地・湿田が連なり騎馬・軍勢の侵入を防ぎます。北、西、南面は猪名寺井から取水した人工の堀を巡らしています。東西150m、南北200mに及ぶ範囲が主郭部です。

江戸時代には不要の堀は一部が埋め立てられ、城跡の形状は変化しました。さらに明治期の鉄道敷設工事で大きく変化しました。

明治24年(1891)に開通した川辺馬車鉄道は同26年に摂津鉄道、そして同

30年には阪鶴鉄道と発展していく過程で、城の中心部は東西に切り開かれて線路が敷設され、東側の台地も削られて現在は西側の一部だけが残る状態です。

《参考文献》 伊丹古絵図集成、新・伊丹史話、地域研究いたみ第18号、伊丹歴史探訪



寛文九年伊丹郷町絵図 伊丹古絵図集成より

〈なぜ城跡の丘陵を縦断して鉄道を敷設したのか〉

伊丹台地の東部地域は猪名川の氾濫でしばしば洪水に見舞われています。天津村は明治29年(1896)の大水害で村は壊滅、集落は解散しました。

下市場村、外崎村は元文5年(1740)の洪水で大きな被害を受け、外崎村の集落は流出して翌、寛保元年(1741)南方の「池の坂」下に村を移したことがしるされています。付近一帯は低湿地あるいは湿田で冠水しやすく、鉄道を敷設するには土を盛って地盤を高くする必要があります。また郷町の集落内に鉄道を通すことは当然、用地取得が困難であり、当時においても騒音・煤煙等の公害を理由に住民は鉄道の集落通過に反対しました。これは伊丹に限ったことではなく、鉄道は町はずれに敷設されています。

このような理由で鉄道敷設は郷町の町中ではなく低地でもない、城跡の丘陵を含む台地端部の微高地に決着したと考えられます。周囲の低地より高い位置に敷設することにより、洪水時の冠水を防ぐことができます。城跡の丘陵は取り崩して土砂は低地部の盛土に利用できます。

鉄道工事が始まる明治20年代は文明開化の風潮が強く、文化財保護の意識は乏しいようです。各地で城郭が取り壊されており、城跡の丘陵を取り壊すことは全く問題にされなか



ったでしょう。

※ 左地図上で“摂”とあるのは摂津鉄道です。明治29年(1896)の水害で解散した天津村の集落が記載されていることから、当地図は明治26~29年頃の様子を示しています。駅部東側の台地はまだ開削されずに残っています。停車場より北部の天津村付近は地盤が低いので、軌道は堰堤状に盛土して敷設されています。

猪名寺井

猪名寺井は内台の下市場、上外崎、外崎、高畑と尼崎市内猪名寺、清水地区に灌漑用水を供給しています。なお西台には加茂井が用水を供給しています。加茂井は猪名寺井と比較すると灌漑面積が広く、また灌漑地の標高が高いので猪名川上流の川西市

兵庫四号仮製地形図 明治二十年製版に加筆

内で取水しています。猪名寺井は灌漑面積が狭く、標高も低いので猪名川のごく近い上流から取水しています。ちなみに加茂井の供給範囲である伊丹小学校の標高が15.8m、猪名寺井流域の有岡小学校は9.7mです。現在の猪名寺井の取水施設は駅近くの駄六川に樋門が設置されています。流域の耕作地は工場の進出、宅地化により大幅に減少しています。しかし井の水量確保のため、駅近くと有岡小学校付近にポンプ室を設置して地下水を汲み上げています。

<三平井について>

猪名寺井の下流の伊丹市内猪名川から取水、猪名寺村および尼崎市内の村々に用水を供給しているのが、三平井(さんぺいゆ)です。この三平井組では三平という人物についての物語が伝承されています。天正3年(1575)の旱魃(かんばつ)に際し、有岡城主荒木村重に対して、猪名川からの取水を農民たちが願い出ますが、村重は他の村々との関係もあって許可しませんでした。村の庄屋であった三平は重罪を覚悟で猪名川の堤を切って水を引き、甕(よみがえ)る水田を見ながら自害したと伝えられています。



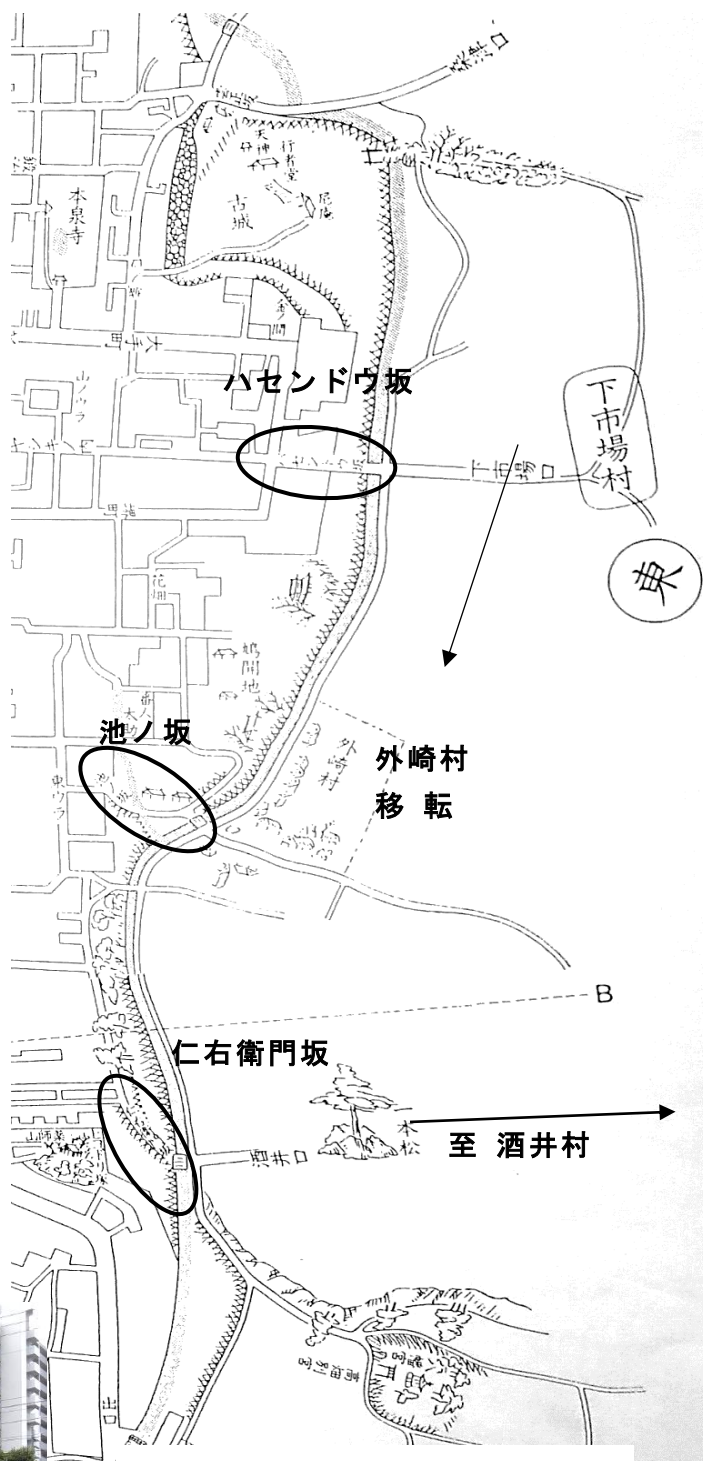
伊丹市域井組構成図 伊丹市史第二巻抜萃

ハセンドウ坂

現在の伊丹3丁目あたりは町名変更前の小字は「長谷堂」でした。有岡城のすぐ南側にあるこの坂は、戦に敗れた村重方が落ち延びて行く道といわれ、長谷堂をもじって「破戦道」と呼ばれていました。

ハセンドウ坂の道は、以前は鉄道を踏切で越える道路につながっていましたが、現在踏切はなくなり、坂道も消滅しています。

坂を下った道は下市場村に通じています。下市場村は台地の坂下に所在しますが、江戸時代中期の伊丹郷町を構成する15ヶ村の1つです。しかし低地にあつたので元文5年(1740)の洪水で多数の死者を出す大きな被害を受けました。明治期の地図ではごく人家の少ない集落のように記載されています。なお下市場村の近くにあった外崎村は集落が流出して、池ノ坂下に村を移転したことは前述のとおりです。



伊丹古絵図集成(本編)に抜粋加工



ハセンドウ坂跡
ガードレールがもとの踏切箇所

池ノ坂

「池ノ坂」は伊丹 5 丁目の旧小字名称です。現在も児童公園の名称で残っています。坂道の周囲は空き地か一部は今風の住宅が建っていますが、狭い道幅で曲りながら下っていく様子は昔の道の風情があります。坂道を登りつめた突き当たりが昔の裁判所跡地で現在の有岡公園です。

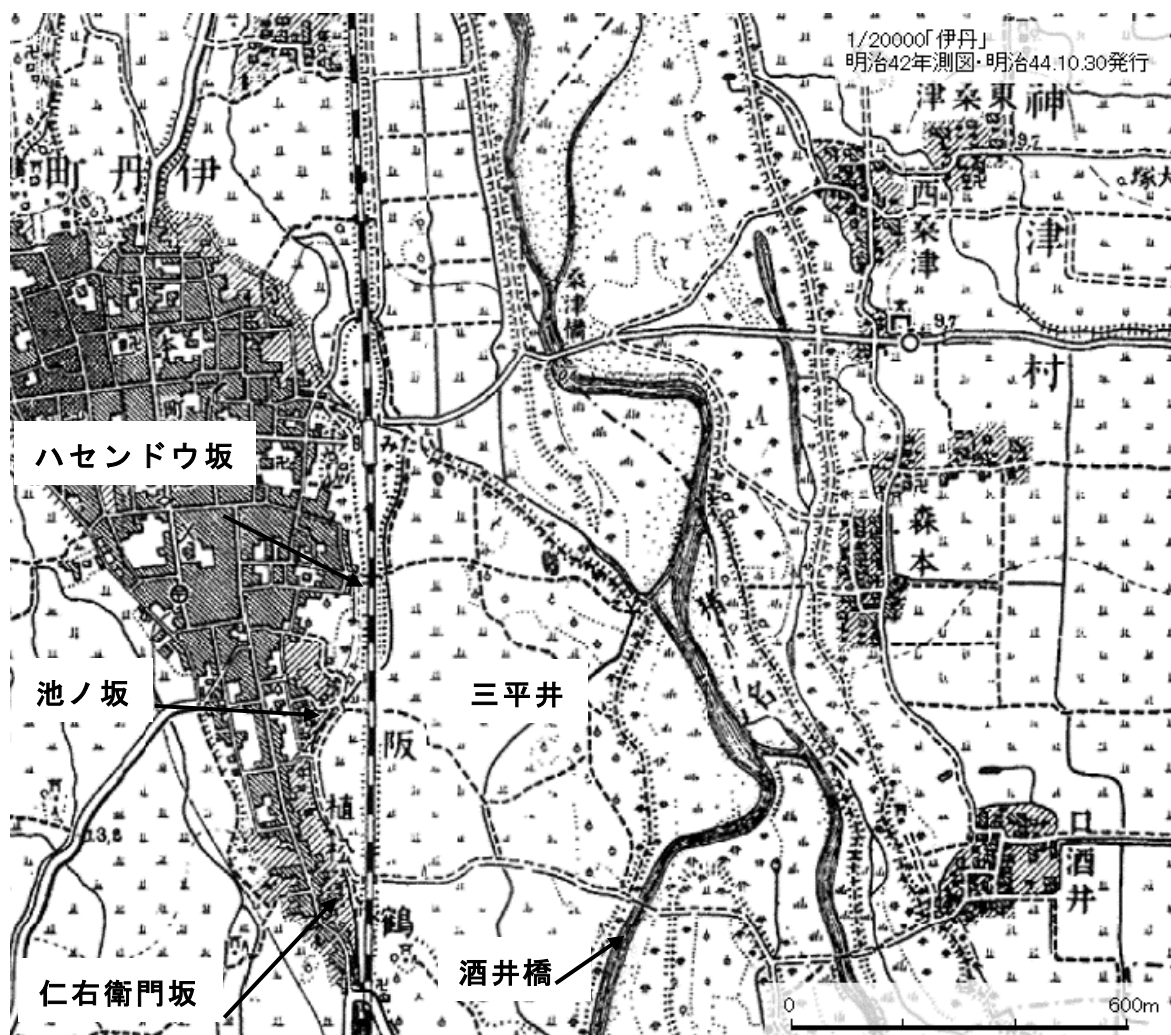
元文の洪水で外崎村が寛保元年(1741)、池ノ坂の坂下に移転しています。

仁右衛門坂

人名由来のような名称ですが、詳しくは不明です。現在坂の周囲は開発されて空き地になっていますが、細い急勾配の坂道が残っています。坂を下ると天井の低い地下道でJRを横断する道路に通じます。

この道は昭和20年代末頃までは郷町南部の植松から口酒井へ通じていました。藻川に架かる酒井橋を渡って川の中洲へ入り、さらに猪名川を渡る橋がありました。

しかしその後これらの橋は消滅しています。おそらく洪水で流出したままで復旧されなかったのでしょう。これに伴い口酒井への道は廃道になりました。

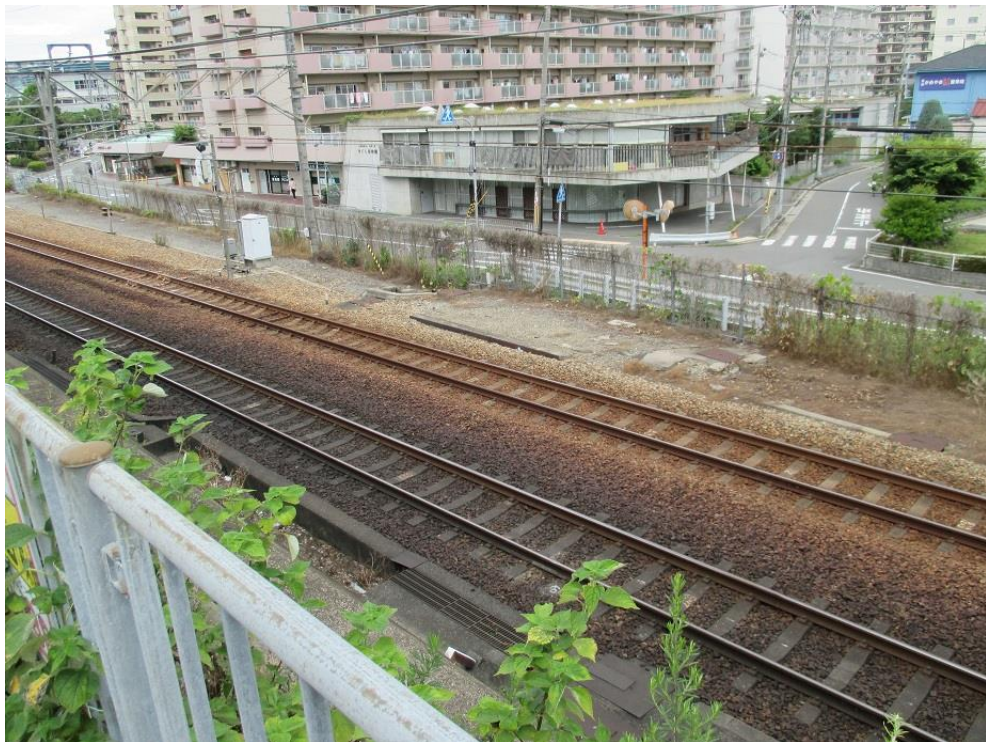


1/20,000 伊丹 明治 44 発行

【関連参考写真】



ハセンドウ坂 坂の上部



ハセンドウ坂 踏切跡および接続



池ノ坂 下部より



池ノ坂 上部より



仁右衛門坂 下部より



仁右衛門坂 上部より



仁右衛門坂 JRを潜る接続道路